

《マルコの福音書 1:1 聖書研究メモ》

マルコの福音書について

著者：マルコ（※1）

(1) 「マルコと呼ばれているヨハネ」（使 12:12）

(2) バルナバのいとこ or 甥（コロ 4:10）

(3) パウロとバルナバの伝道旅行に同行

（使 12:25; 13:5）

しかし、途中で離脱（13:13）

(4) 第2回伝道旅行で、バルナバはマルコを連れて行くつもりだった（使 15:37）

パウロは「一向から離れて働きに同行しなかった者は、連れて行かないほうがよい」と考えた（使 15:38）

パウロとバルナバは「激しい議論になり、その結果、互いに別行動をとることになった」

（使 15:39）

(5) パウロは後にマルコを「同労者」と認めた（ピレ 24）

晩年には「私の務めのために役に立つ」とも！（2 テモ 4:11）

(6) ペテロは「私の子マルコ」と呼んでいる

（1 ペテ 5:13）

マルコはペテロの弟子になっただけ

書かれた場所と読者

(1) 場所：ローマ

(2) 読者：ローマのクリスチャンたち

書かれた時期

(1) 紀元 50 年代前半？

(2) 紀元 60 年代後半？

構成

1. プロローグ：メシアの紹介（1:1-13）

2. メシアの権威（1:14-8:21）

3. メシアの苦難への道のり（8:22-15:47）

4. エピローグ：復活の知らせ（16:1-8）

5. 結論（16:9-20）

(Mark L. Strauss, Mark, Zondervan, 2014.)

執筆目的

(1) 伝道のため

(2) 弟子訓練のため

※1 例：エイレナイオスの証言（紀元 2 世紀末）

このようにして、ペトロとパウロがローマに福音を伝え、教会を基礎づけていた時、マタイはヘブライ人の間にあって彼らの言葉で福音の書を [も] 公にした。彼ら（ペトロとパウロ）の死後、ペトロの弟子・通訳であったマルコもペトロから宣べ伝えられたことを書物の形で、私たちに伝えた。またパウロの門弟ルカも彼（パウロ）から宣べ伝えられた福音を書物の中に書きつけた。その後、主の弟子で、またその胸によりかかったヨハネもアジアのエフェソにいた時、福音書を公にした。（小林稔訳『エイレナイオス 3 異端反駁 III』教文館、1999 年、p. 6 より）

マルコの福音書のキーワード (1:1)

- ・ ギリシャ語原文の語順
はじめ、福音、イエス・キリスト、神の子

1. 福音

ギリシャ語で「ユーアンゲリオン」

ギリシャ・ローマ的背景：喜ばしい知らせ（戦争の勝利、新しい王の即位など）

ユダヤ的背景：神が王として来られたという知らせ

→イザヤ書 52:7（他にも参照：詩 96:2; イザ 40:9; 61:1）

良い知らせを伝える人の足は、
山々の上にあつて、なんと美しいことか。
平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、
救いを告げ知らせ、
「あなたの神は王であられる」と
シオンに言う人の足は。

2. イエス・キリスト

イエス →ヘブル語で「イエシュア」（意味：主は救い or 主は救われる）

キリスト→ヘブル語「メシア」のギリシャ語訳

メシア →イスラエルと全世界に平和をもたらす、救い主である理想的な王

3. 神の子

イエスが「神の子」であるということは、マルコの福音書では随所で強調されている。

(1:11; 3:11; 5:7; 9:7; 12:6; 13:32; 14:36, 61; 15:39)

ギリシャ・ローマ的背景：神話に出て来る英雄や王、またローマ皇帝のこと

ユダヤ的背景：ダビデの子孫から出るメシアのこと

メシアが神ご自身であるという意味合いも含む

→詩篇 89:26, 27（他にも参照：2サム 7:14; 1歴 17:13）

彼は わたしを呼ぶ。『あなたはわが父 わが神 わが救いの岩』と。

わたしもまた 彼をわたしの長子 地の王たちのうちの最も高い者とする。